



財務のクマ通信

ランチェスター財務戦略春日井 2016年10月号



戦後復興策の第一歩は「日本中の家に電灯を灯し、子供達に勉強をさせたこと」だったそうです。勉強をして正しい知識を身に付けることが技術力と国力向上の第一歩であり一番の早道というのが理由とのこと。

経営も同じ。まずは正しい知識を身に付け事業に取り入れることが成功の早道である ～ランチェスター経営 竹田陽一氏～

経営理論・法則・ルールを応用した効果的な資金の使い方の事例をご紹介します。

「自己資本」で資金繰りの7割が決まる

■ある社長の反省

昨年夏、ある会社の決算書分析のお手伝いをさせて頂きました折、終了後社長様がこんなことをおっしゃいました。

「一点目の反省は、自己資本をもっと貯めてくればよかったこと。24年間も経営をしてきたのに貯めてこなかった。たとえ毎年百万円でもやっていれば、今ゆとりを持って色んな手を打っていた。税金を納めたくなかったから経費を使い利益を圧縮してきた。

二点目は、自分は数字に疎かったということ。数字に強い人が優秀な社長とは限らないが、優秀な会社の社長は総じて数字に強い・・・」

この会社は社員8人のいわゆる「零細企業」。社長は自身を「数字に疎い」と言われていますが、常に「数字という結果」に向き合っている方です。

「自己資本不足」と「数字が苦手」これは多くの小規模企業に共通した「弱点」であると思いますが、末永く経営を続けるためにはとても重要な部分ですので掘り下げて考えてみたいと思います。

■自己資本は会社の土台

自己資本とは、会社所有の「資産」から「負債」を引いた残りの事で、決算書には「純資産」と記載されています(純資産と自己資本は同じ意味)。

お金の使い道	お金の調達方法
資産 1,000万円	負債 △700万円
	純資産 (自己資本) 300万円

例えば会社所有の資産1,000万円を全て換金し、負債700万円を返済したら、手元に300万円残ります。これが会社の真の財産で、会社の土台の強さはここで決まります。

約1,600社もの倒産企業を十数年間に渡り調査・分析し、小さな会社専用の財務戦略を確立されたランチェスター経営の竹田陽一先生は、

「資金繰りの7割は自己資本で決まる。ここが弱かったら支払や借入方法などをいくらいじっても資金繰りが根本的に良くなることはない」とおっしゃいます。

自己資本を人の身体に例えると「足腰」。ここが弱いと自由な生活ができないので、常に誰かの援助が必要となります。

会社も「足腰」が弱いと自由な経営が出来ませんので、末永く経営を続けていく上でとても大事なのが「自己資本」なのでありますが……

(次ページへ続きます)

■なぜ自己資本が重要なのか

現実には「預金残高と1～2ヶ月先の資金繰り」だけが重視されています。確かに当面の資金繰りは重要項目です。しかし会社の真の強さや安全性は現預金だけではわかりません。その理由は現在の商慣行「信用取引」にあります。

例えば身近な信用取引の代表例はクレジットカードです。財布の中身は減らないのに欲しいモノが手に入るのでつい使ってしまう。しかし所持金以上に使ってしまうと支払日に落とせず、今度はそれを穴埋めするためにキャッシング……。信用取引は便利な反面、財務状況を麻痺させてしまうという怖い面も持ち合わせているのです。

商売の場合、信用取引はさらに増えます。掛売、掛仕入、手形、借入、リース、クレジット等信用取引だらけですので、実際の財務状況をさらに麻痺させ「資金は回っている」と誤解させるのです。

しかし決算書分析で実態を見ると「債務超過寸前」というケースが少なくありません。

■今すぐ自社の自己資本をチェック

多くの経営者は「売上・経費・利益」は見ますが、「自己資本」をちゃんと見ている人は稀です。

これに対し財務に明るい社長や銀行の融資担当者は「自己資本」をちゃんと見えています。実際の財務状況、会社の真の強さを表しているからです。

「自己資本は気にしていなかった」とい方は早速決算書で以下の項目をチェックしてみてください。

1. 自己資本比率
2. 従業員一人当たりの自己資本額
3. 固定比率

この作業は、ちょっとした会計知識が無いと難しいかもしれませんが、まずは顧問税理士さんに手伝ってもらうのがよろしいかと思います。

弊社でも決算セミナーにて解説をしておりますので、よろしければトップページ下の「ランチェスター式財務分析セミナー」をご参照ください。

編集後記

会社を発展させるために必要な要素は幾つもあると思いますが、その中に「数字と向き合う」という要素があるのは間違いありません。

私は平成6年から20年間、従業員30人以下の「小規模企業社長様」に対して財務面でのお手伝いをさせて頂いておりますが、この規模の社長様にとって「財務・数字」は最も苦手とされているテーマのようです。

そこで約10年前より、ランチェスター経営の竹田陽一先生のご指導を賜りながら「わかりやすく・愉しく・実務的」な財務戦略を研究・実践しております。まだまだ修行中の身ですが、「わかりやすい、実務に役立つ」とのご感想も徐々に頂けるようになってきました。

この通信もできる限りわかり易く、事例を踏まえながら定期的にお届けいたしますので、ご活用頂けましたら幸いです。



発行者

会社名：ランチェスター財務戦略春日井 代表 熊谷文男(くまがい ふみお)

所在地：春日井市浅山町2-1-23

連絡先：代表電話(0568)97-5778

